

平成20年度

事業報告書

財団法人

日本高等学校野球連盟

◇ 事業の状況

1. 高等学校野球の振興、指導および加盟団体に対する監督

(1) 年度内に全国理事会を5回、また毎月定例として常任理事会を開催（12月を除く）して案件の審議、決定を行いました。更に各種専門委員会を必要に応じて随時開催、諸問題の審議、検討を行い高等学校野球の健全な育成、発達に努めました。

また年度内各都道府県高等学校野球連盟会長会議、同理事長会議をそれぞれ各1回開催し、加盟団体との連絡と諸問題の伝達、徹底を計りました。

(2) 高等学校野球の健全化促進のため、本年度も『大会参加者資格規定』を定め、各都道府県連盟に通達し、加盟校への指導を要請しました。

2. 高等学校野球の調査、研究

(1) 年度内に開催された第80回記念選抜高等学校野球大会ならびに第90回全国高等学校野球選手権記念大会に参加した出場校に、大会会期中の宿舍生活実態と参加経費、寄付金募集の状況と過不足金の処理方法などの内容についてアンケート調査しました。両大会運営委員会ならびに理事会においてこの集計を報告、今後の指導方法と対策を検討しました。

(2) 5月末現在を基準とした硬式、軟式両加盟校の部員数調査を今年も実施しました。集計結果は硬式が169,298人(797人増)、軟式が11,450人(140人増)。硬式の部では、11年連続前年比増で過去最高を記録。また、加盟校数は昨年より29校減の4,163校であった。

3. 高等学校野球大会の開催および協力

(1) 第80回記念選抜高等学校野球大会

毎日新聞社と共催で3月22日から4月4日までの14日間、阪神甲子園球場で開催、1月25日に開かれた選考委員会で選考された36校が参加し無事盛況のうちに終了、沖縄尚学高等学校（沖縄）が9年ぶり2回目の優勝を果たしました。準優勝は初出場の聖望学園高等学校（埼玉）。

(2) 第90回全国高等学校野球選手権記念大会

朝日新聞社と共催で8月2日から18日までの17日間、阪神甲子園球場で記念大会のため例年の大会より6校増の55校が出場して開催。大阪桐蔭（北大阪）が年ぶり2回目の優勝を果たしました。準優勝は初出場の常葉菊川高等学校（静岡）。

(3) 第53回全国高等学校軟式野球選手権大会

全日本軟式野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社の後援を得て8月25日から31日までの6日間、兵庫県下の明石公園野球場と高砂市野球場で開催しました。参加校は全国16地区から各1校ずつ計16校。決勝戦は延長15回引き分け再試合となり、作新学院高等学校（北関東・栃木）が2年ぶり7回目の優勝を果たした。準優勝は、中京高等学校（東海・岐阜）。

(4) 第63回国民体育大会・高等学校野球競技

夏季・秋季大会が一本化されて3年目の大会を大分県で開催。硬式の部は、9月28日から新大分球場で12校が参加。29日、30日雨天中止となり2回戦2試合と準決勝、決勝を行わず競技会は打ち切りとしました。勝ち残り6校の順位はなし。

軟式の部は、9月28日から平成の森公園野球場で10校が参加。29日、30日雨天中止となり準決勝、決勝を行わず競技会は打ち切りとしました。中京（岐阜）、作新学院（栃木）、広島商（広島）、比叡山（滋賀）の4校が1位。

(5) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国9地区で4月下旬から6月上旬にかけて開催、無事終了しました。

(6) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、東京、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国10地区で10月上旬から11月上旬にかけて開催、無事終了しました。

(7) 第39回明治神宮野球大会・高等学校の部

11月15日から15日まで5日間、明治神宮野球場で開催。高等学校の部は、東京都のほか9地区から各1校が参加し、慶応高等学校（神奈川）が初優勝を飾りました。

[海外派遣ならびに招待]

次の通り年度内に海外招待ならびに国際大会を行い、野球を通じて国際親善の実を挙げました。

(1) 日米親善・アーバンユースアカデミー（カリフォルニア州コンプトン）招待

8月16日から27日まで12日間、アーバンユースアカデミー（役員10人、選手18人）が来日。奈良、和歌山、静岡、愛知、各県選抜チーム、全日本選抜チームと親善試合を行い、結果はアーバンユースアカデミーの4敗1分でした。

(2) 日伯親善・全日本選抜チームブラジル派遣

8月27日から9月10日まで15日間、全日本選抜高校チーム（役員9人、選手20人）をブラジルに派遣。バストス、ロンドリーナ、カンポグランデ、モジダスクルーゼス、サンパウロで親善試合を行い、結果は全日本選抜チームの7勝1敗でした。

4. スポーツ医科学の調査、研究

(1) 年度内開かれた第80回記念選抜大会と第90回選手権記念大会に参加する投手全員を対象に、大会前に肩、肘の関節機能検査を実施、スポーツ障害の予防に努めました。検査結果の概要は次の通り。

		(80回選抜)		(90回選手権)	
検査受診者数		112人		155人	
		肩・肘		肩・肘	
X線所見・肘（剥離骨折）		なし 19人		施行せず	
同・肘（遊離体）		なし 2人		施行せず	
		肩・肘		肩・肘	
医師の診断	軽度の炎症	7人	6人	26人	24人
	中程度の炎症	1人	1人	1人	1人
	重い炎症	なし	なし	なし	なし

以上の結果、大会規定による投球禁止適用者はいなかった。

5. 一般アマチュアスポーツ団体との協力、提携

年度内に次の団体と協議、懇談会を開催、アマチュアスポーツの振興、発展に努めました。

(1) 全国高等学校体育連盟

6月11日と12月17日の2回、連絡会を開催。全国高等学校体育連盟から特待生制度の実態調査結果や指導者規定の見直し経過について説明を受けた。当連盟からは21年度採用予定の野球特待生の募集要項の調査結果を説明し、特別支援学校の取り扱いやドーピングについての取り組みについて意見交換した。今後年度内2回を目途に定期連絡会を開催することとした。

(2) アマチュア3団体連絡会

日本野球連盟、日本学生野球協会（全日本大学野球連盟）と当連盟で定期的に連絡会を開催。全日本アマチュア連盟関係の諸問題について話し合った。さらに、プロ・アマ関係問題の協議とオリンピックの野球競技復活について、プロ野球側とも協議を行った。

6. 高等学校野球の指導者、審判等の講習会開催

(1) 審判講習会

第48回全国審判講習会を4月19、20日の両日、実技は阪神甲子園球場、また座学は中沢佐伯記念野球会館で実施。各都道府県から参加した受講者を対象にルール研修や実技指導を行いました。

また、北海道をはじめ9地区の地区別審判講習会に講師を派遣、地方審判の技術向上に努めました。

さらに、中学・少年野球育成事業の一環として、少年野球合同審判講習会を1月31日、2月1日に開催、受講者80人を対象に審判技術の統一と向上を図った。

(2) 新任理事長研修会

第17回新任理事長研修会を開催。2月5日、6日の2日間実施しました。研修会では学生野球憲章をはじめ、各種の規定や通達の解説、また選抜、選手権大会の出場校に対する参加上の要領等を説明、本年度に就任の理事長11名が参加しました。